※令和４年度以降入学生用

学校番号	3023

令和８年度　芸術科

教科	芸術科	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「美術 1」　（光村）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・あなたの見たこと、覚えていること、感じたことなどを平面や立体で表現します。授業では技法と素材・画材を提示します。素材・画材の特質を最大限に生かし、自分の思いや考えを表現できる能力を磨きます。
・自由に表現するためには基礎・基本が大切です。1 年生では毎時間授業の初めに人物クロッキーを行います。最初は８分くらいから始めて、一年の終わりには３分くらいで描けるように頑張りましょう。クロッキー帳は毎回集めてチェックします。一年の成果がよくわかり励みになります。
・作品を作る際に、教科書や美術関係の図録などを参考にすることや、友達の作品を互いに鑑賞したり自分の作った作品を実際に使ってみたりすることで、鑑賞の能力を深め、今後の制作に役立てましょう。

2　学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てると共に、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
・美術作品の表現の工夫や美術文化などを理解し、創造的な美術の表現をするために必要な技能が身につくこと。テーマや表現内容に応じて技法や素材・材料の基本的な知識を持ち、かつ自分なりに考えて応用することができること。
・感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し創造的な表現の構想を練っていること。また、意図に応じて、表現方法や技法、素材・材料について自ら考え工夫していること。
・材料や技法を自分なりに工夫していること。また、テーマに即して、主体的に資料を集めている。また、関連する芸術家の作品に興味を持ち調べ学習をしていること。完成後の振り返りシートでは客観的に自らの作品に対して論評を述べ、次の作品に生かしていること。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解している。創造的な美術の表現をするために必要な技能が身についている。テーマや表現内容に応じて技法や素材・材料について、基本的な知識を持ち、かつ自分なりに考えて応用することができる。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し創造的な表現の構想を練っている。また、意図に応じて、表現方法や技法、素材・材料について自ら考え工夫している。	材料や技法を自分なりに工夫し、一つの作品に対し多くのエスキースを作っている。また、テーマに即して、主体的に資料を集めたり、芸術家の作品に興味を持ったりして、調べ学習をしている。完成後の振り返りシートでは客観的に自らの作品に対して論評を述べ、次の作品に生かしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	人物クロッキー	・人物クロッキー 1年間通して、毎時間授業のはじめに行う。8分から始めて1年の終わりには3分に短縮する。画材はクロッキー帳と鉛筆やボールペンなど。左手で描くこともある。描画後、自分でよくなかったところ、うまくいかなかったところについて記入し、回収されたクロッキー帳書かれた教師のコメントを読んで自分のよいところと未熟なところを発見する。	a: 人物の体のプロポーションや骨格の構造、筋肉の動きなど基本的な知識と理解を持ち、それらを的確に表現できている。 b: 対象を見つめ形態の特徴をつかみ、さらに、モデルになった友達について思いをはせながらその内面も表現できるようにする。 クロッキーの目的を理解し、画材の特性や線の表情を生かし表現しようとする。 c: :毎回のクロッキーが徐々に上達することに喜びを感じ、次はどのように表現するか考えている。友達の作品を見て違った表現や参考になるところを発見し今後の制作に生かす。	クロッキー帳の作品と振り返り 制作の様子	クロッキー帳の作品と振り返り 制作の様子	クロッキー帳の作品と振り返り 制作の様子
	校内スケッチ	・風景画(主に印象派)の鑑賞。 ・校内を散策し、自分のイメージにあう場所を探す。 ・自分の表現イメージにあわせて構図や色彩、技法を考える。 ・クロッキー帳に簡単にエスキースを描き構図を練る。 ・エスキースをもとに画材を選ぶ。 ・可能な限り現場へ行って制作をする。 ・相互鑑賞。自己採点。	a: 提示した画材(日本画の顔彩やアクリル絵の具)の特性を生かし表現方法を工夫し、目的に合わせ個性的な表現をしている。構図について、透視法や空気遠近感などの理解があり、それらを表現できる技能を持っている。 b: 自分の表現したいことを表現できる構図や色彩の効果などを深く考えている。誰でもない自分の表現方法を考え個性的な表現ができている。 c: これから３年間過ごす学校の校舎や庭をよく観察し、自分が最も描きたいと思った場所をどのように表現するか真剣に考える。掲示された友達の作品を見て感想を述べたり自分と違う表現を発見したりする。	制作の様子 作品 振り返り	制作の様子 作品	クロッキー帳の下絵 振り返り

※令和４年度以降入学生用

2学期	樹脂の小さなオブジェ	・教科書や図録を使い抽象形態について　それらをヒントに自分の作りたい形のイメージを広げ、クロッキー帳に下絵を描く。 ・封入用ポリエステル樹脂の特性を生かしてできる形を考える。 ・油土・石膏・ポリエステル樹脂を使って制作する。 ・耐水ペーパー(＃80～＃1200まで丁寧に番手を上げながら)とピカール、シカの皮などで磨いて仕上げる。	a:　原型を作るための粘土の特性、石膏のときかた、樹脂の扱い方、石膏の割りかたと研磨の方法についての理解と技能が身についている。抽象形態について深く理解している。 b:具体的な事物を抽象形態に落とし込む作業についての判断が個性的で的確である。また、技法により限られた条件とその素材の特性を生かしながら自分の作りたい形を工夫している。 c:　自分の作りたい形体のために必要な素材を主体的にそろえたり工夫したりして作品に生かしている。教科書や図録から参考になる立体の作品について調べ、作者の意図に思いをはせる。	制作の様子 アイディアスケッチ 作品 振り返り	制作の様子 アイディアスケッチ 作品	制作の様子 アイディアスケッチ 作品 振り返り
	ティーセットを作ろう	完成した作品を使ってみんなでお茶会を開くと言うイメージで、自分だけの世界でたった一つのティーセットを作る。 ・下調べをした上でワークシートにデザイン画を描く。 ・粘土の特性を理解し、成形していく。 ・自分の考えた形になるように道具や手を使って成形していく。 ・まずカップを制作し、慣れたらポットを制作する。 ・成形できたら乾燥し素焼きをする。 ・絵付け、釉がけ、本焼きなど手順に沿って仕上げていく。 ・実際にお茶会を開き互いに鑑賞しあう。	a:　粘土の特性や道具と手の使い方を理解、習得している。お茶を飲む道具であることを理解し、その機能性や使いやすさデザイン性などを知識として習得している。 b:　粘土の特性を理解し、ポットという立体デザインを作る際に自由な表現ができることとある程度機能という面で制限があることを理解し、その上で自分の作りたい形を表現するための構想を練っている。オリジナルなデザイン、意図に応じた色彩や形などについて深く考えながら制作している。 c:　過去の作品や図録や雑誌、店舗などに出向き実際の急須やポットをリサーチし、作り方の工夫や使い心地、デザインの良さや美しさを感じ取り、自分の作品に生かすために主体的に取り組んでいる。制作のための準備や後片付けを率先して行っている。友達の作品の良さや美しさの感じ取り、自分の作品に生かす。さらに自分の作品を使ってみて、その温かみや楽しさに触れ、また形体の工夫などを反省し、今後の制作につなげる。	アイディアスケッチ 制作の途中の様子 作品 振り返り	アイディアスケッチ 制作の途中の様子 作品	アイディアスケッチ 制作の途中の様子 作品 振り返り

※令和４年度以降入学生用

3学期	銅版画	・過去の作品やダリヤマグリットなどのシュールレアリズムの画家の作品などを提示し、心象風景の自由な表現方法を提示する。 ・自分でテーマを決め、アイディアスケッチを描く。 ・銅版に下絵を転写する。 ・ニードルで彫っていく。 ・インクをすり込み拭き取る。 ・湿らした用紙にプレス機を使って転写する。 ・作品のテーマに合ったタイトルを考える。 ・相互鑑賞。	a:各々の版画の技法とその特性や違いについて深く理解し、銅版画の特徴を生かした作品作りができている。ニードルを使っての作業が丁寧で描画が表現にとって効果で敵である。インクの塗りやふき取りかたによって作品がちがって来ることを理解し自分の表現内容に合わせた作業ができる。 b:自分でテーマを決めそのテーマをもとに完成や想像力を働かせ、技法の特性を生かし、形や構図を決める工夫をしている。版画の特性を生かした表現を工夫している。自分の心の中で感じていること、喜びや悲しみ希望などにしっかり向き合い主体的に表現しようとしている。抽象表現や心象風景を表現した過去の作家の作品などを主体的に調べ自分の作品に生かそうとしている。 c:様々な図録や画集を参考に、自分の表現したいことが表現できるようにアイデアを練っている。友達の作品から、作者の気持ちや制作意図、表現の工夫をくみ取りその作品の良さや美しさを理解しようとする。	アイディアスケッチ 制作の途中の様子 作品 振り返り	アイディアスケッチ 制作の途中の様子 作品	アイディアスケッチ 制作の途中の様子 作品 振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度